



科学館でこんなことがありました

今年度は、キッズタイムという3歳～7歳の小さなお子さんが保護者の方と楽しめる特別なプラネタリウムの投影を6月から毎週土日と祝日、夏、冬、春休みの10時10分から行っています。6～8月のテーマは「おりひめ、ひこぼし、あまのがわ」。小さなお子さんでも見られるプラネタリウムということが人気で、たくさんの方にご覧いただき、その様子を科学館のホームページでも紹介しています。



「お歌をいっしょに歌ったよ」

大阪市
まほちゃん



「楽しかったです。また観たい」

大阪市
りおちゃん



「宇宙旅行の土星が大きかった！」

交野市
かなちゃん

館内に7月1日から「七夕まつり」ということで大きな笹を用意し、カラフルな短冊に願い事を書いていただくコーナーを7月7日まで設けていました。

7月4日はサイエンスショー研究会を開催しました。公開中のサイエンスショー「スーパー磁石～アルミが動く?～」と秋からの「光のヒ・ミ・ツ」が演示され、参加者の間で活発な討論がありました。

そして、研究会が終わった直後にCERNからヒッグス粒子の話題が飛びこんできました。急遽阪大の花垣先生と斎藤学芸課長に記事を書いてもらうことにし、表紙もヒッグス博士に決めました。

七夕の7月7日には、中央図書館で嘉数主任学芸員が「近世大坂の科学者たち -日本の近代化の先駆者-」と題して講演会を行いました。江戸後期の大坂には、適塾を主催した緒方洪庵、江戸幕府から暦作成を依頼された間重富など、当時の日本の最先端をいく科学者が多くいました。彼らはどのような活動を行なったのか。その業績を、今に残る史跡を交えて紹介いたしました。



広 告